

11-15の考古学

発掘調査で 何がわかる?

見学ノート



名前 大木 Q(キュウ)
土器の妖精
年齢 4800 歳くらい
座高 36.5cm
趣味 縄文土器づくり



Q くんモデルになった
本宮市の高木遺跡出土の
縄文土器

土の中に残された痕跡

わたしたちの足元、つまり地面の下には、遠いむかしから現代にいたる人々の営みの痕跡が残されています。これをわたしたちは、「遺跡」とよんでいます。この「遺跡」を適切な方法で掘りおこして、様々な情報を取り出し、記録して、未来へ引き継げるようにまとめる行為が「発掘調査」です。「発掘調査」は考古学の研究方法のひとつで、文字がないはるか昔や、文字がある時代でも、記録として残されなかった人々の暮らしの様子をつかがい知ることができます。

この展示では、県内のさまざまな遺跡の『発掘調査の現場』にスポットを当てて、むかしむかしの福島についてどのようなことがわかってきているのが、また、発掘調査はどのようにしておこなっているのが、わかりやすく紹介していきます。



名前 天光くん 名前 和泉ちゃん
性格 好奇心旺盛 性格 しっかり者



遺跡はなぜ土の中にあるの?

『遺跡』と聞くと、エジプトのピラミッドや、ペルーのマチュピチュなどの特別な場所というイメージがあるかもしれませんが、でも、日本列島を生きたわたしたちの遠い遠いご先祖様が暮らした痕跡は、ほとんどが土の中にあります。なぜ、土の中にあるのでしょうか。遺跡が遺跡になる前、そこに人が暮らしていた時代にタイムスリップしてみよう!



たて穴住居に住む家族が、団らん中。食事を囲んでいます。お父さんの大切な弓矢や石斧、穴を掘るための道具。お母さんが作った土偶や土器。少年がつがっている木の実をいれるカブヤ、それらをすりつぶす磨り石や石皿など生活には欠かせない道具が所狭しとおかれています。



縄文家族の団らんから数十年。だれも住まなくなったたて穴住居の屋根と柱は朽ち果ててしまいます。近くに住む人がゴミを投げ込むこともあります。そして、落ち葉が accrue 腐植土や雨水などで、土も流れ込みたて穴住居が埋まっていきます。



朽ち果てたたて穴住居は数百年の年月をかけて完全に埋まり、原っぱになりました。おや、イノシシの親子がこちらをのぞいています。ここに縄文家族が暮らしたたて穴住居が埋まっているなんてだれも知りません。あなたの足元にも埋まっているかもしれません。

発掘調査ってどんなことをしているの？

歴史の研究目的の調査は『學術調査』といって、全国で年間3,000の件ほどおこなわれています。



土に埋もれた遺跡が、建物や道路などをつくるための開発行為によって失われる前に、発掘調査をおこない遺跡の記録を残します。このような記録保存のための発掘調査は、主に都道府県や市町村の教育委員会が中心となつて年間およそ8,000～9,000カ所でおこなわれています。ここでは、たて穴住居跡の発掘調査の流れを紹介します。

① 遺跡の範囲と性格を確認する



土器や石器が落ちていないかさがしたり、地元の人に聞いて情報を集めます。遺跡があるとなつたら、その土地の何が所か試掘り(小規模な溝を掘る)をして、どんな時代や性格の遺跡なのか、範囲や深さなどを調べます。

② 遺構をさがす



どうしてたまった土と周りの土は色が違うのかな？

土を平らに削って色の違いを見極めます。たて穴住居などの人間が地面を掘ってつくった場所には、周りの土と違う色の土がたまります。どうやら黒っぽい土は円形や楕円形のたて穴住居跡が重なっている場所だったようです。

観察の結果を図面や写真撮影して記録します。

③ たまっていた土を記録する



出土した土器や石器などの遺物は出土地点を記録しながら、取り上げていきます。

遺跡の中で遺物がどこで、どのように出土したかの情報が昔の人々の様子を解き明かすために重要になります！！

たて穴住居跡がどのように埋まっていったかを観察するために土の帯を残して掘り断面図(図1)を作成します。土のたまり方をみると、住居が使われなくなった後に一度に埋めてしまったか自然に少しずつ埋まったのかその土はどこから流れ込んだ土なのかなどがわかります。

計測内容を方眼紙(図2)に記録する人

④ 図面を作成する



たて穴住居内にたまった土をすべて取り除いた段階で、写真撮影をおこないます。また、住居の大きさや柱穴や炉跡の配置などを記録するために、測量して平面図(図2)を作成します。近年はデジタル機器をつかって測量することも多くなっています。

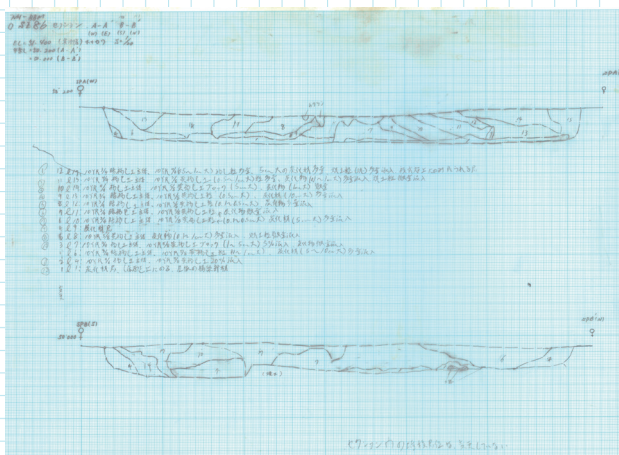


図1 土のたまり方を記録した『断面図』

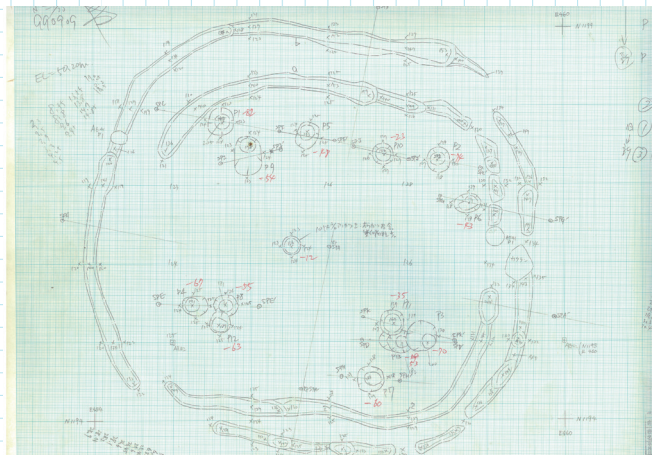


図2 住居の大きさや柱穴などを記録した『平面図』

ほかには何がみつかったの？

遺跡から掘り出された様々な痕跡は、当時の人々の様子をわたしたちにおしえてくれます。ここでは、当時の暮らしがいに今に伝える遺構（地面に残された痕跡）や、自然災害の跡など、いろいろな調査事例を紹介します。

縄文人を襲った
大地震の
痕跡！？

この地割れの痕跡は、長さ92m、
幅2～6m、深さ1～2mにおよび
ます。

縄文時代前期（約6500年前）の集落を大地震が襲った時に地面が大きく割れた『地割れ』の部分からは、縄文土器の破片もみつがっています。この地割れ跡からわずか15mの距離に、同時期のたて穴住居がみつがっています。目の前で地割れを目にした縄文人もいたかもしれません。地震があつたあとも、同じ場所に住み続けていたようです。

縄文時代の
システム
キッチン！？



複式炉をリフォームしたときに
取り付けられた土器

くんのモデルに
なった土器

最初に複式炉に取り付け
られていた土器

詳しく調査するために複式
炉を断ち割ったときの写真
だよ！ボクは
この複式炉から
みつかった
んだよ！



これは、縄文時代のたて穴住居からみつかった煮炊きをするところ、つまりキッチンです。このような形の炉を『複式炉』といいます。石が敷かれたところや土器が埋められていたところで火を焚いていたようです。縄文時代の中頃（約4500年前）の東北地方、特にここ福島県のあたりで大流行しました。この複式炉を半分に割って詳しく調査したら、複式炉のリフォームにとともに新たな土器が重ねられたことがわかりました。

落とし穴の断面 登戸遺跡（猪苗代町）

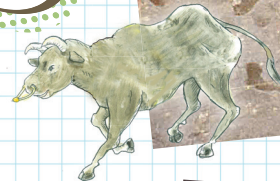
火山灰の層

沼沢火山
大噴火？！

遺跡からは、シカなどの動物をとらえるために作られた落とし穴がたくさん見つかることがあります。この穴には縄文時代前期の終わり頃（約5400年前）に噴火した沼沢湖（金山町）から飛んできた火山灰がたまっていました。このことから、この穴はそれよりも前に作られたものだというのがわかります。

水田から
みつかった
足跡？！

足跡がついた水田跡
大森 A 遺跡（相馬市）



古墳時代の後半（
約1500年前）の
田んぼの跡からは、
人間のほか牛とみら
れる動物の足跡がみ
つかりました。



どうして牛の
足跡もついでに
いるのかな？

井戸は
タイムカプセル？！

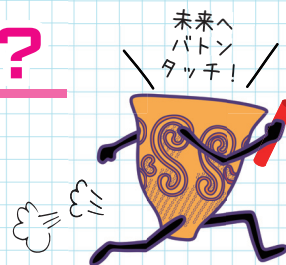


昔の
人々
が
使
っ
た
も
の
が
こ
こ
に
あ
る
の
だ
よ
！



井戸は地面に穴を掘って地下水をくみ上げる施設です。そんな井戸跡からは、井戸を使っていた人が落とししたものや捨てたものもみつかります。水分を多く含んだ土が空気をさえぎるので、ふだんなら腐って消えてしまう木の道具がそのままの状態で見つかることもあり当時の暮らしがよくわかります。

発掘調査がおわったらどうするの？



発掘調査でみつかった土器や石器、作成した図面や写真は整理作業室に運ばれます。そして、調査の記録をまとめた『発掘調査報告書』という本をつくるための整理がおこなわれます。この『発掘調査報告書』が、開発によって壊されてしまう遺跡の内容を未来に伝えるものとなります。そして、出土品や写真などの資料は展示会で公開したり、活用するためにきちんと整理して、収納されます。



土がついている出土品は、水で洗ってきれいにします。縄目が消えたり、表面に傷がつかないようにブラシでいねいに洗います。乾燥後は、裏面の目立たない箇所に出土情報などを書き込みます。



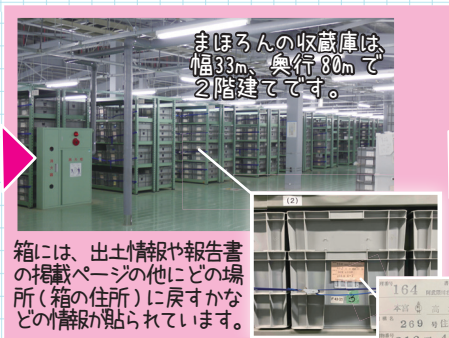
土器の特徴や出土した地点を参考にしながら、破片をつなぎ合わせます。しかし、すべての破片が完全な形に組みあがるとは限りません。破片がみつからない箇所には修復剤をいれて形を補います。



土器や石器などの出土品をよく観察して、大きさ・形・文様・特徴・製作技法などの情報を図で表現していきます。また、土器の文様などをあらわすために拓本をとることもあります。



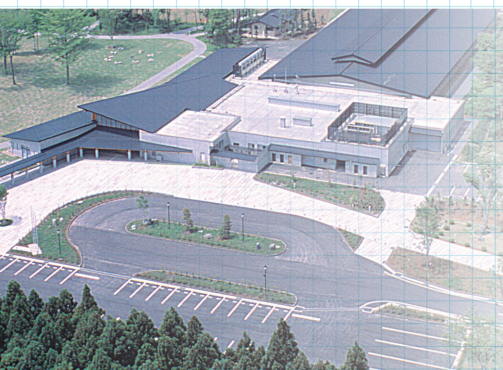
パソコンで、断面図や平面図、出土品の実測図、執筆した文章などを編集していきます。できあがった発掘調査報告書は、まほろんや県立図書館などで、誰でもみることができます。



福島県教育委員会が発掘調査した出土品や調査時に作成した図面・写真などは、まほろんに収蔵されます。必要がある時にはすぐに取り出せるように様々な工夫をしながら完全に保管しています。



まほろんでは、収蔵品を保管するだけでなく、多くの方に楽しみながら歴史と文化財への理解を深めることができるように、展示や昔の技術にふれることのできる体験学習などで活用をしています。



未来へ引き継ぐ

発掘すると次々に新しい発見があるので、どんどん発掘したほうが楽しいと思います。でも、遺跡を残しておけば、科学技術が進歩したときに、より精度の高い調査ができるようになります。実際に、近年の調査技術や出土品の保存技術の進歩には目を見張るものがあります。しかし、遺跡を守るためにすべての開発を止めることはできません。福島県文化財センター白河館(まほろん)は、今できる最善の方法で遺跡の情報と出土遺物を保存し、これを多くの人に知っていただき、未来に引き継いでいくという役割を担っていきたいと考えています。

U・I・Sの考古学

令和7年度まほろん企画展

発掘調査で何がわかる？

発行日
開催期間
編集・発行



令和7年6月14日
令和7年6月14日(土)～9月23日(火)
(公財) 福島県文化振興財団
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段86
TEL: 0248-21-0700 FAX: 0248-21-1075